

平成21年8月26日

各関係機関の長 殿

鹿児島県農政部長  
(食の安全推進課扱い)

平成21年度 病虫害発生予察情報について (送付)

このことについて、発生予察警報第1号(普通期水稻のトビイロウンカ)を發表します。

## 病虫害発生予察 警報第1号

- 1 農作物名 普通期水稻
- 2 病虫害名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県内全域の普通期水稻栽培地帯
- 4 発生量 多
- 5 発生状況及び警報発令の根拠
  - (1) 本年はトビイロウンカの発生が多く、8月17日～24日の巡回調査で発生ほ場率が99%(平成12%, 前年0%)と平成や前年に比べて非常に高かった(表1)。
  - (2) 巡回調査において発生程度が中(6頭/株)以上のほ場割合が18%で、一部では1株当たり数十～数百頭のトビイロウンカが寄生しているほ場も認められた。
  - (3) 地域振興局などの情報では既に坪枯れ被害が認められている。
  - (4) 向こう1か月の天候予報では、九州南部の気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が見込まれる。
- 6 防除対策及び防除上注意すべき事項
  - (1) 7月1日の飛来虫に由来する第3世代幼虫の防除時期は9月10～15日頃と予測される(別紙、発育経過予測図を参照)。発育状況は地域やほ場によって差があるので、防除にあたってはほ場毎に確認する。
  - (2) 8月に防除を行ったほ場でも、発生密度の高いほ場が認められているので、ほ場の中まで入って発生状況を確認し、発生を認めた場合は早急に防除する。
  - (3) 本虫は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤を使用する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布する。
  - (4) 粉剤や液剤による防除が不可能な場合は、粒剤による防除を行う。粒剤を使用する場合は湛水状態(3cm程度)で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしないように注意する。
  - (5) 農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布にあたっては飛散に十分注意して行う。

表1 トビイロウンカの発生状況 (調査日：8月17～24日)

地域名	発生ほ場率 (%)		調査ほ場数
	平成21年	平年	
南 薩	100	18	10
北薩平坦	100	13	24
北薩山間	95	12	22
大 隅	100	7	6
県 計	99	12	62

※ 平年値は1999年～2008年までの平均

※ 巡回調査地点

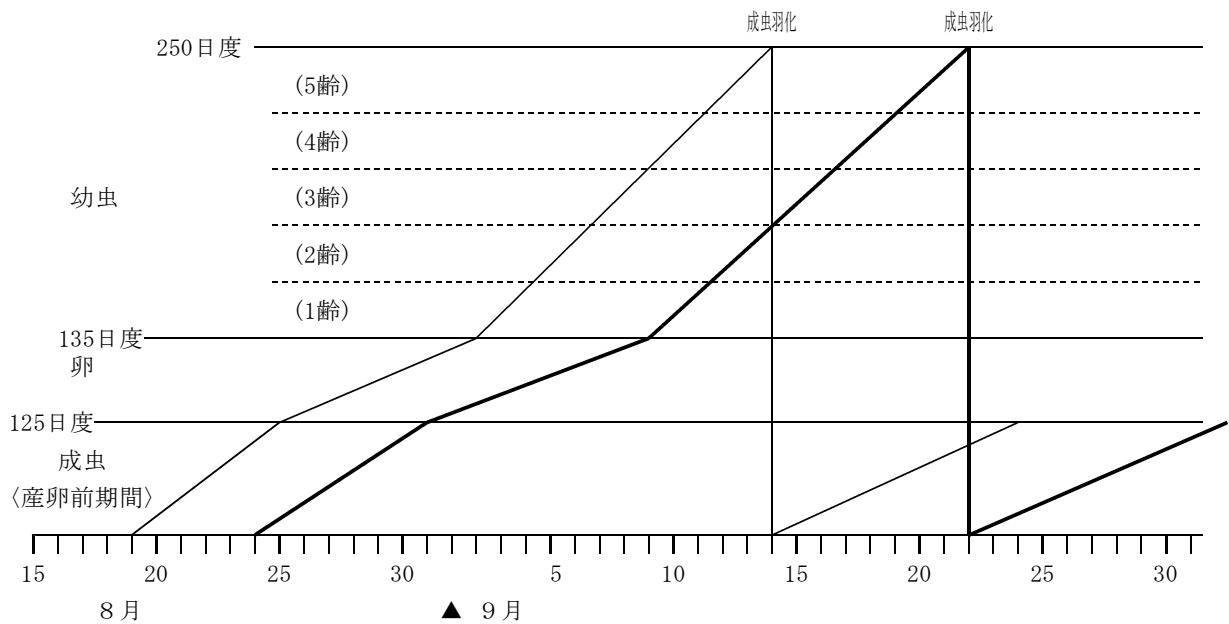
南 薩： 南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目  
日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦： 鹿児島市東佐多町，蒲生町楠田，始良町三拾町  
霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町  
出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田  
薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間： さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手  
伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・大田・山野，湧水町北方

大 隅： 曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里

図1 トビイロウンカの有効積算温度による発育経過予測図



(注) 7月1日飛来：太線（主飛来），6月23日飛来：細線  
気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。  
平成21年8月23日作成，鹿児島地方気象台（鹿児島）の気温データを使用